

総務民生常任委員会 政務調査

(8月6日開催)

視察地 小平町・苫前町
調査事項

(1) 家庭用廃油回収事業

小平町では平成15年より家庭から出される廃食用油を各ゴミステーションにて回収する事業が開始された。平成21年度廃油回収量は3,742トンを月平均約300トンである。

再利用として小平町では、一部の公用車にSVOディーゼルシステムを導入し、試験的に燃料として使用している。また、使い切れない廃油は回収業者に販売し収入を得ている。

本町では、ゴミの減量と河川環境保全の推進を図ることを目的に、今年度からモデル事業として回収した廃食用油を燃料化し、有効利用に努めている。7月現在の回収量は127トンを、小平町の回収量と大きな差が生じているものの、今後の啓蒙活動に期待する。



▷ 苫前町にある風力発電施設

(2) クリーンエネルギーと観光シンボルの役割

苫前町においてクリーンエネルギーとして注目されている風力発電施設を視察した。環境に優しい新エネルギーとして太陽光発電と共に注目され、苫前町では平成10年に風力発電施設が建設され、現在は売電・観光資源として活用されている。

本町も様々な角度からクリーンエネルギーの利用を検討し、環境保全・経費の節減、さらには収入源として捉えた取り組みに期待したい。

経済文教常任委員会 政務調査

(7月23日開催)

視察地 富良野市

調査事項

(1) 有害鳥獣被害対策事業

新十津川町有害鳥獣対策協議会が4月14日に発足した。今後の活動に向け、農産物の被害対策を先進的に取り組んでいる富良野市を研修した。

富良野市の「エゾシカ」の

被害額は、

17年度	3,500万円
18年度	4,300万円
19年度	1億2,880万円
20年度	2億7,050万円
21年度	2億4,664万円

個体駆除頭数は、

17年度	705頭
18年度	724頭
19年度	1,035頭
20年度	659頭
21年度	1,256頭

と侵入防止防護柵の効果があるものの、現在の生息数が把握できず苦慮している。

市やJAによる助成制度は、駆除費用1頭当たり1万円(市6千円・JA4千円)、ハンターの育成では平成19年度2名、20年度4名、21年度3名で計9名育成した。助成金は、銃免許取得者となら免許取得者にそれぞれ1万円を助成。さらに銃免許取得者更新時に2万5千円の講習助成をしている。その他、猟友会に運営助成40万円と賠償責任保険料一人当たり5,940円の助成を行っている。

侵入防止防護柵は、4地区で総延長286km設置しており、そのうち自衛隊演習場周辺は防

衛省の補助(2/3)で81kmを金網で張り巡らせ、残りは農林水産省の補助(1/2)で樹脂ネットを設置している。現在まで侵入防止防護柵設置費用の総額は、約7億円以上になっている。

今後の課題

① 個体総数の実態把握

(国や北海道へ要望)

- ・エゾシカの生息数
- ・年間の増加頭数

② ハンターの確保と育成

③ 駆除環境の整備

④ 鹿肉の有効活用

などが今後の課題として急務となっている。

議員定数12

全員協議会は、次期改選期における議員定数を現状の12議席が必要と結論を出した。